



宮城病院周辺地区 まちづくりニュース



第 13 号 H26. 7. 2 発行

8月9日(土)

今年も、七夕交流会を行います！

昨年は7月7日に第1回七夕交流会を行いました。

開催目的は、①移転希望者や合戦原周辺住民の方への宮城病院周辺地区まちづくり協議会の周知、②食事をしながら気軽に意見をいただくと、③私たち協議会が3地区の中で一番最初にイベントを開催すること、でした。



50名の参加者で新山下駅周辺地区の災害公営住宅見学をしたほか、短冊に想いを書いて飾ったり、楽しく食事をしたりしながら意見交換をしました。

今年も七夕交流会の開催準備を進めています。昨年以上に楽しく、有意義な時間になりたいと思っていますので、ご参加をお待ちしています！

詳細は次号で！

このまち、この人。



たかはし せいじ さん
77歳。入院中に「リハビリ」の一環として理学療法士から陶芸を勧められたことをきっかけに、やきもの世界へ。仙台市内のギャラリーでグループ展を開催したほか、現在は作品を山元町農産物直売所・夢いちこの郷で販売中

「リハビリ」として始めた陶芸に夢中
仲間との語らいも楽しみの一つ

合戦原区 高橋 清次 さん

協議会の会長として活躍する高橋清次さんのもうひとつの顔は、陶芸家。「年をとってからも夢中になれる楽しさがある」と、陶芸を続ける理由を語ります。



山元陶芸会に所属し、昨年までの15年間は会長を務めました。「仲間と一緒に語り合う時間でもあるため、かけがえのないもの」と、協議会などの活動で忙しい今も、月1～2回は陶芸室に足を運びます。

土をこねる作業は見た目以上に体力を使います。そのあと、電動ろくろを使って白磁の土に赤や青色の土を練り込ませ、絶妙な力加減でマーブル模様をつくっていきます。高橋さんの作品の特徴は、なんといつてもこのやわらかな色合い。形ができ上がったら乾燥させて窯へ。今では河北展に入賞するほどの腕前です。

山元陶芸会

平成元年に公民館主催の陶芸教室の修了生たちが中心となって始まった陶芸愛好会。

現在は会員20名が「陶燿」(火曜)、「白陶」(木曜)、「ともしび」(土曜)の3グループに分かれ、山元町ふるさと伝承館の陶芸室を拠点に活動しています。

第2・4日曜日には気軽に参加できる陶芸教室も実施中。詳細は下記へお問い合わせを。

問い合わせ

090-8617-8745

(会長・齋藤武男さん)



花器や蚊やり器など
思い思いに作陶

6月13日に行われた臨時役員会では、町から「①宮城病院周辺地区における移転希望者数の変動(19戸減)、②医療・福祉系事業者から新たな土地利用の希望があったことを理由として、住宅減少分を公益施設用地に変更することについて、6月5日の町議会特別委員会で説明しました」と、土地利用計画見直しの経緯について話がありました。



造成の進捗状況については現在、建設廃棄物の処理を進めており、7月末までに終了する見通し。なお、この日に会員から寄せられた質問は6月29日(日)の協議会で回答予定。詳細は次号にて。

宮城病院周辺地区 土地利用計画平面図

